さんけん新聞

発　行
特例認定
ＮＰＯ法人
三段峡―太田川
流域研究会
（代表・本宮炎）

〒731－3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木1734
☎090・
3421・3046
◇
https://sanken-hiroshima.org/

キラキラツアー

「はっぱじゃんけん」「探検・同じ物見つけ」…
未就学児が自然遊び

未就学児を対象にした三段峡自然体験イベント「キラキラツアー」が十一月十二日、親子六組十八人が参加して開かれた。寒い雨天だったが、子供達は自然遊びを楽しんだ。赤い羽根共同募金の助成事業。

参加した親子は、拾った落ち葉の色や形でじゃんけんをする「はっぱじゃんけん」、「探検・同じ物見つけ」など四つの遊びを体験した。保護者の庭田絵美里さんは「子供のチャレンジする姿がうれしい。スタッフの見守りがあり安心」と話していた。

自然の大切さや素晴らしさを伝えるインタプリター役は、本宮宏美事務局長が講師を務めた広島県環境学習指導者専門研修を受講した六人。オンラインで打ち合わせを重ね、プログラムを組み立てた。インタプリターの國田正平さんは「自然体験から学ぶだけでなく、親子のコミュニケーション形成としても意味がある」と話し、不安定な天候の中での無事開催にホッとした表情だった。

「はっぱじゃんけん」をして遊ぶ子供達

「三段峡WEB図鑑」スタート
多彩な自然可視化　来春専用サイト

さんけんと広大さんけん部が進めていた、ＳＮＳを活用した「三段峡Ｗｅｂ図鑑」の発信が十一月十八日、始まった。動植物や景観などを一日一回、掲載する予定だ。インスタグラムは「sanken_hiroshima」、フェイスブックは「ＷＥＢ三段峡野外博物館」のアカウントで投稿。来年四月には専用サイトを立ち上げる。

多彩な自然を可視化するのが狙いで、継続的な記録で将来への資料的価値が期待される。ＳＮＳの活用は広大さんけん部の提案、写真コンテストの試験運用を兼ねる。この事業のサイトは三段峡ツアー組織の「Ｄｒｏｐｓ」が出資作成する。

2022年版三段峡カレンダー発売

二〇二二年版の「三段峡カレンダー」が発売された。縦十五㌢×横十八㌢の卓上用、十三ページ＝**写真**。表紙には小さく「監修　特定非営利法人三段峡―太田川流域研究会」が入り、表紙裏には「三段峡憲章」が記されている。写真は風景だけでなく、葉の上に咲くハナイカダの花に取り付くアリやキノコがあり、多様な自然を紹介している。

瀬尾淳副理事長が経営する広瀬印刷の地域発信事業の一環。購入は同社ホームページの「地域発信事業」から。一、六五〇円（消費税、送料込み）。

生物多様性戦略会議
本宮事務局長　初参加

広島県が所管する生物多様性広島戦略推進会議が十一月九日、広島市内で開かれ、本宮宏美事務局長が初参加した。三段峡や深入山でのさんけんの保全活動が評価されての出席要請がきっかけ。会議は専門家・有識者、地域・関係団体の二十人で構成され、生物多様性の保全、普及啓発の取り組みを話し合った。

中国新聞「緑地帯」
松尾理事が寄稿

中国新聞文化面の「緑地帯」へ十一月三日から八回連載で、「三段峡　人が紡ぐ１００年」と題した松尾俊孝理事執筆のコラムが掲載された。熊南峰の功績をはじめ、先人の関りや現在へ引き継がれる活動を紹介し、三段峡の歴史・文化面へ焦点を当てた。さんけんのホームページの「ｂｌｏｇ」へ紙面を再掲している。

一口メモ

▼探勝路苦難

夏の大雨で不通になっていた正面口―水梨口間のうち、女夫淵（実質は石樋）までが十一月五日、開通した。正面口の観光客は激減。店舗や駐車場経営者には厳しい秋になった。今冬はラニーニャ現象の影響で寒い冬になる、と予報されている。探勝路にとっては追い打ちになるのか不安だ。

三段峡の鳥たち①

アカショウビン
全身赤く「火の鳥」

五月初旬から七月にかけて、三段峡入り口付近で「キョロロロ…」という鳴き声を聞くが、深い森の中にいるので姿を見るのは難しい。真っ赤な大きいくちばしを持ち、全身が赤いので「火の鳥」とも呼ばれる。雌雄同色、オスがやや濃い。ハトくらいの大きさでカワセミやヤマセミが仲間である。

カカア天下？　甲斐甲斐しくパパ活

朝鮮半島、ボルネオ、スマトラ、フィリピン、マレー半島など東南アジアに分布し、日本では夏鳥として全国に飛来する。県内では渓流沿いの広葉樹林やブナ林で繁殖する。セミ、ヘビ、トカゲ、カタツムリ、カエルや水辺ではサンショウウオの幼生、サワガニなどを餌にする。

枯れ木に穴を掘って営巣する。掘るのは主にオスで、メスは付き添い、時々出来具合を点検する。オスはメスが気に入るまで次から次に掘る羽目になる。

卵は五個ぐらい、交代で抱卵し、約二十日で孵化する。雛が小さいうちはメスが抱いて温め、オスは甲斐甲斐しく餌を運ぶ。ヒナが大きくなるとメスも餌運びをするようになるが、「パパ活」ぶりがいとおしい。

孵化後、二十日ほどで巣立つがしばらくは親鳥の世話が続く。九月下旬、南の国への長い旅路に飛び立つ。

（認定ＮＰＯ法人西中国山地自然史研究会副理事長・上野吉雄）

「さんけんの歩み」（2020年11月～2021年10月）

2020年11月	アフターコロナ１泊モニターツアー実施▼風力発電建設計画地の市間山・立岩山で歩く会▼地元小中学生がカヤック体験
１２月	三段峡卓上カレンダー発売▼広島ホームＴＶ「地球派宣言」収録
１月	無印良品と協業事業を協議▼「楽しい100人」オンライン中継
２月	風力発電計画で講演会、ふりかえる会開催し情報提供
３月	パブリックリソース財団の組織診断結果報告、高評価▼風力発電方法書へ意見書提出▼ヤマセミを探す会実施、中国新聞で紹介
４月	環境教育ツアー「自然あそび縁（えん）」初開催▼探勝路清掃、38人参加▼アーカイブ事業開始▼コケテラリウム講座ネット開催
５月	県温暖化対策活動促進補助金の交付決定▼上野吉雄さん野生生物保護功労者表彰▼「自然塾」など中止▼相談役に吉田秀政氏就任
６月	２企業との協業プロジェクト決定▼石樋―ぐるの瀬間の川沿いルート踏査▼環境教育プログラムに芸北小児童が参加▼年次総会
７月	自然あそび縁、さんけん自然塾開催▼中国新聞写真連載企画「太田川」で三段峡紹介▼二谷ルート３回整備するも難航
８月	豪雨で土砂崩れ多発、正面口―水梨口間不通。観光に大打撃▼温暖化対策補助事業で葦刈り▼希少植物調査▼事務所の看板一新
９月	「三段峡ミュージアム構想」広大さんけん部が展示準備に着手▼天上山でさんけん自然塾の事前調査▼戸河内ボルダーから寄付
１０月	火育とキノコのさんけん自然塾実施▼清掃の会、復旧ボランティア４回活動▼こどもエコツアー開催▼学校間交流事業２件実施